

令和2年度 畜産試験場の試験研究推進方向

技術開発の方向

- 第3期長野県食と農業農村振興計画に基づき、高品質な畜産物の効率的な生産と収益性が高い畜産経営の確立に向け、新たな技術の開発や高能力種畜の作出に積極的に取り組みます。また、優良種畜の受精卵や雛の配布を進めるとともに、畜産環境の改善や家畜のストレス低減のための技術開発に取り組みます。
- 国、県、民間企業等との連携を一層深めることにより、実用性の高い研究成果を早期に得るとともに先進的な技術開発の推進に努めます。

試験研究のねらい

主要課題とその内容

I 魅力あるオリジナル品種の開発と多分野連携

- 新たな遺伝的評価法による黒毛和種の改良と、多様なニーズに対応した新しい地鶏の開発に取り組みます。
- 多分野と連携した先端的な農業技術の開発に取り組みます。

- I-1 ゲノミック評価による黒毛和種種牛の改良（H30～R4年）
 - ・ ゲノミック評価と受精卵移植技術を活用して枝肉重量と脂肪交雑に優れた種畜を作出します。
 - ・ 受胎率向上のための体外受精卵の選卵技術や凍結保存法を開発します。
- I-2 新たな信州オリジナル地鶏の開発（H30～R4年）
 - ・ うま味のバランスが良く、発育が良好で早期出荷が可能な地鶏を開発します。
- I-3 簡易低コストTMR自動給餌システムの開発（H30～R4年）
 - ・ 県内企業と連携し中小規模酪農家が導入可能な低コスト給餌機を開発します。

II 生産現場の課題を解決するための技術開発

- 畜産物の安定生産と家畜の繁殖性を向上させる技術の開発に取り組みます。
- 飼料の安定生産に向けた飼料作物新品種・栽培技術の開発に取り組みます。
- 家畜・飼料作物生産の低コスト省力化及び家畜のストレス低減のための技術開発に取り組みます。

- II-1 スマート技術を活用した乳肉牛のアニマルウェルフェア対応型の飼育技術の開発（H31～R3年）
 - ・ 既存の牛床構造を改造することを前提とした快適な繋ぎ飼い方式のモデルを考案し、その有効性を実証します。
- II-2 乳・肉用牛の繁殖性向上技術の開発（H30～R4年）
 - ・ 牛群検定成績を活用した繁殖性に優れた乳牛の遺伝形質の解明と遺伝形質改良手法を実証します。
 - ・ 乳・肉用牛の性選別精液を利用した体内受精卵の受胎率の向上技術を開発します。
- II-3 牛肉中オレイン酸含量を高めるための飼育技術の開発（H30～R4年）
 - ・ 信州プレミアム牛肉を増産するため、牛肉中オレイン酸含量を高める技術を開発します。
- II-4 乳・肉用牛子牛の哺育・育成改善技術の開発（H30～R3年）
 - ・ 発育不良要因の解明と哺乳期及び育成期の栄養管理技術を確立します。
- II-5 高度な防疫体制と新たな技術開発を可能とする養豚研究施設の整備（R2年）
 - ・ 防疫レベルを高めるとともにアニマルウェルフェアなど新たな飼養技術を開発するための施設整備を実施します。
- II-6 特色ある豚肉の低コスト生産技術の開発（H30～R5年）
 - ・ 高品質なブランド豚肉の開発を目的として関係者との意見交換や現状調査を行います。
- II-7 地鶏の寒冷ストレスを軽減する育雛管理技術の開発（H30～R5年）
 - ・ 初生期の雛を寒冷馴致することにより、その後の寒冷ストレスを軽減する技術を開発します。
- II-8 極晩生ソルゴー型ソルガム新品種の育成（H30～R2年）
 - ・ 繁殖農家向けの耐倒伏性及び選好性に優れた極晩生ソルゴー型ソルガム新品種を育成します。
- II-9 水田転換畑における子実とうもろこし生産技術の開発（H30～R2年）
 - ・ 施肥法改善などによる水田転換畑における子実とうもろこし増収技術を確立します。
- II-10 牧草・飼料作物奨励品種選定試験（H30～R4年）
 - ・ 収量性が高く、長野県の気候に適した牧草、飼料用とうもろこし及びソルガム品種を選定します。
- II-11 大規模飼料生産組織に対応した省力管理技術の開発（H30～R4年）
 - ・ 大規模飼料生産組織のための草種、生産工程の探索及び生産性の実証を行います。